

神秘学ポエジー 風遊戯
photopos
147

【神秘学ポエジー～風遊戯 第 294集】 photo ヴァージョン

photopos 3651-3675

《2024.9.8～2024.10.2》

神秘学遊戯団

意味は
どこから
訪れてくるのか

私たちは
気づかないうちに
意味を生きている

意味とはなにか
問うことさえないままに

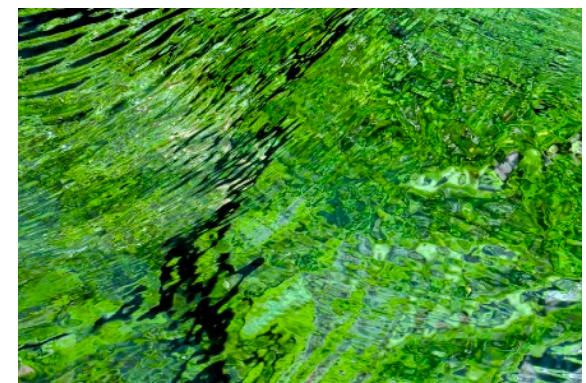
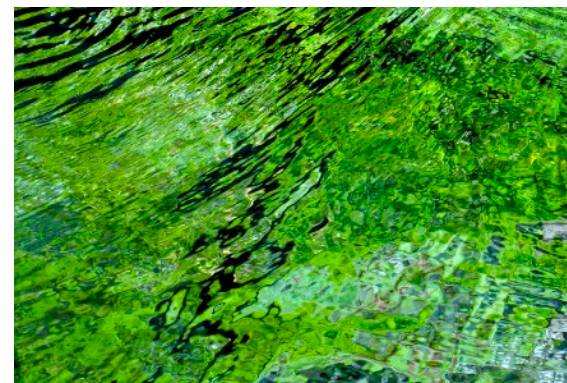
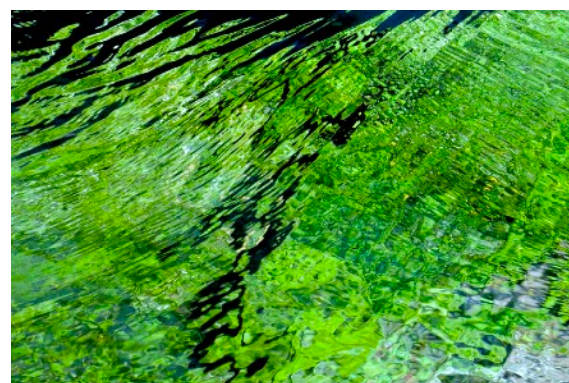
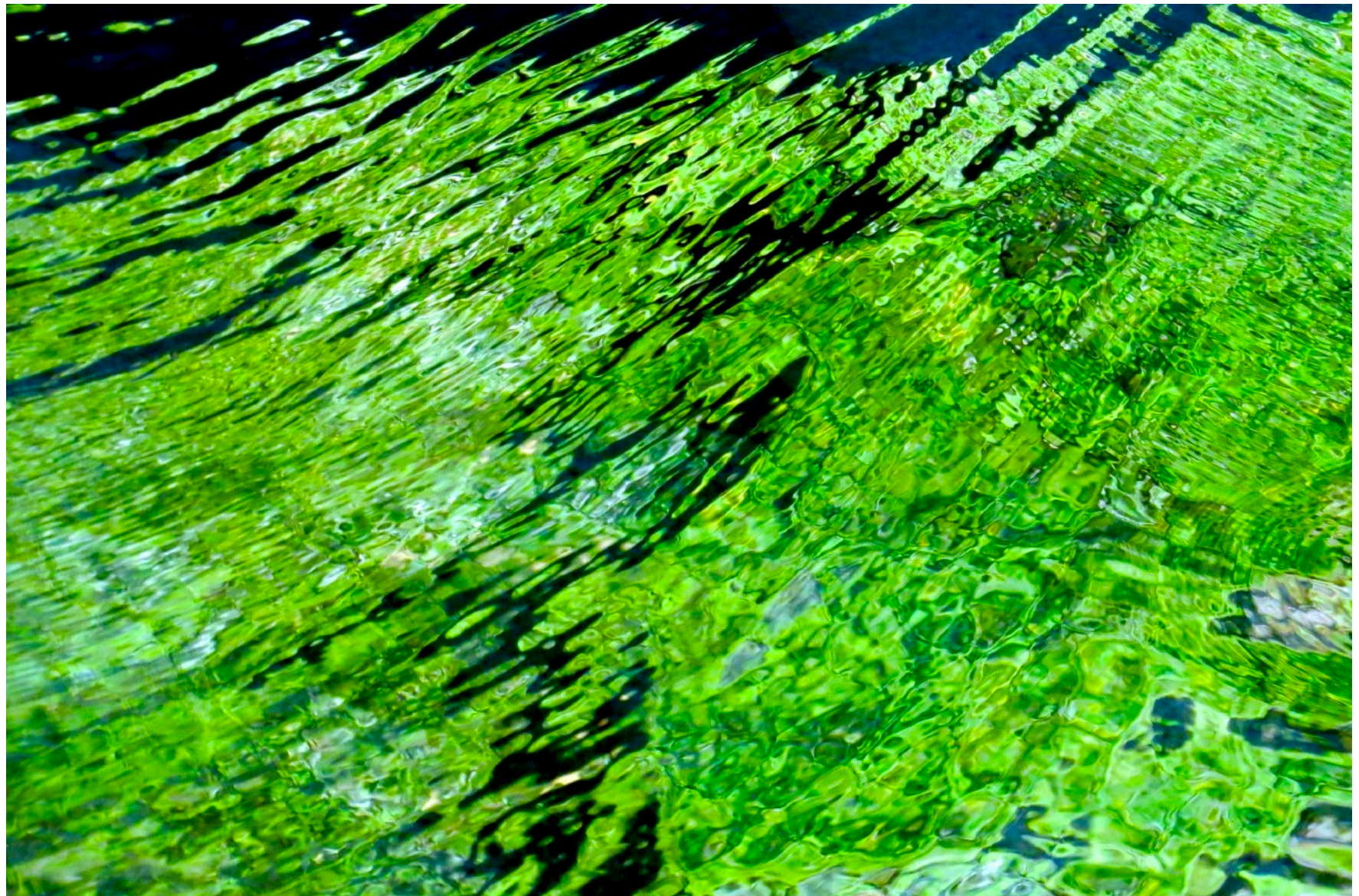
そして
意味から
逃れられなくなっていく

物語は
どこから
訪れてくるのか

私たちは
気づかないうちに
物語を生きている

物語とはなにか
問うことさえないままに

そして
物語から
逃れられなくなっていく



＊愛媛県久万高原町・面河溪にて

わたしは
わたしでありながら
わたしの外にいる

そのとき
わたしとは
名だろうか

名から
逃れようとする
仮の主語だろうか

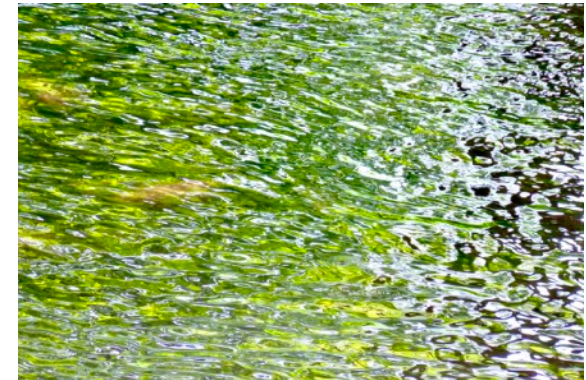
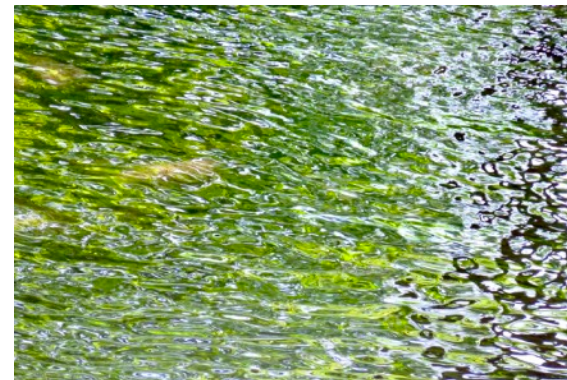
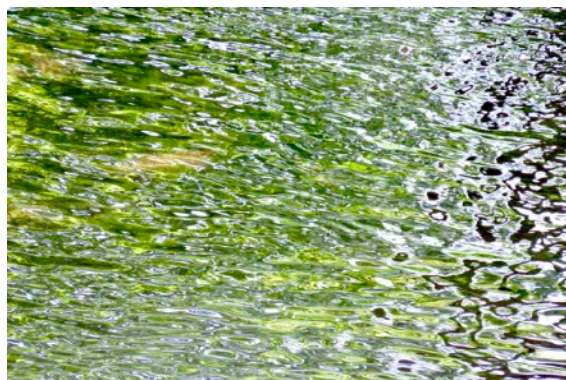
わたしは
迷っているのか
彷徨っているのか

わたしが
向かっている場所
あるいは
帰ってゆく場所はあるのだろうか

だれでもないわたしは
わたしであることを問いながら
どこにもない場所へと
向かっているのかもしれない

ひとであること
ひとでないこと
そのあいだをめぐりながら

わたしは
わたしでありながら
わたしの外にいる



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

問わなければ
世界は現れない

門は
問わなければ
開かれないように

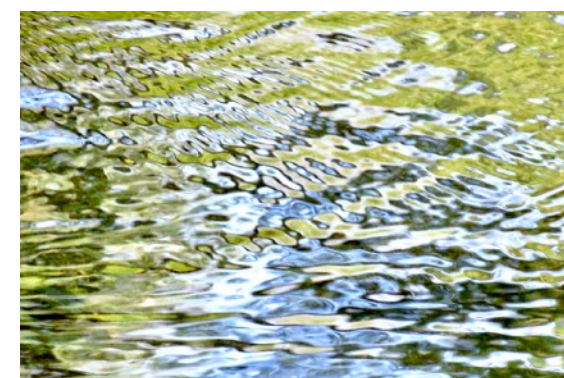
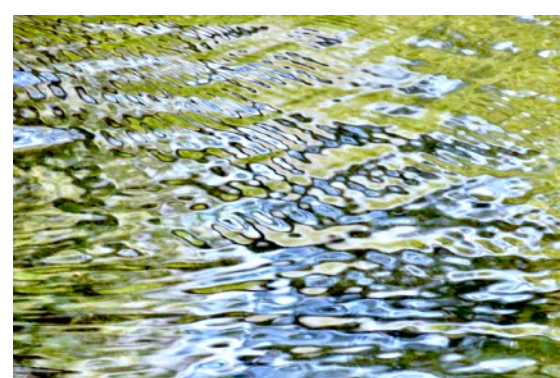
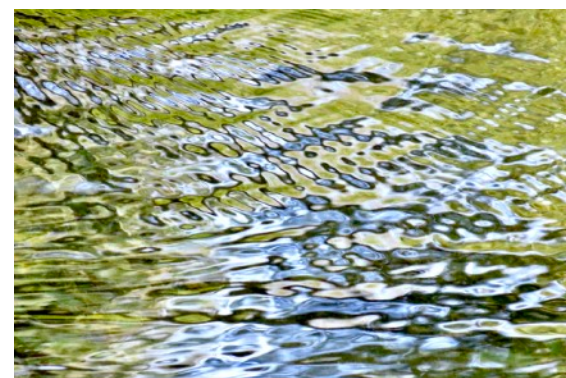
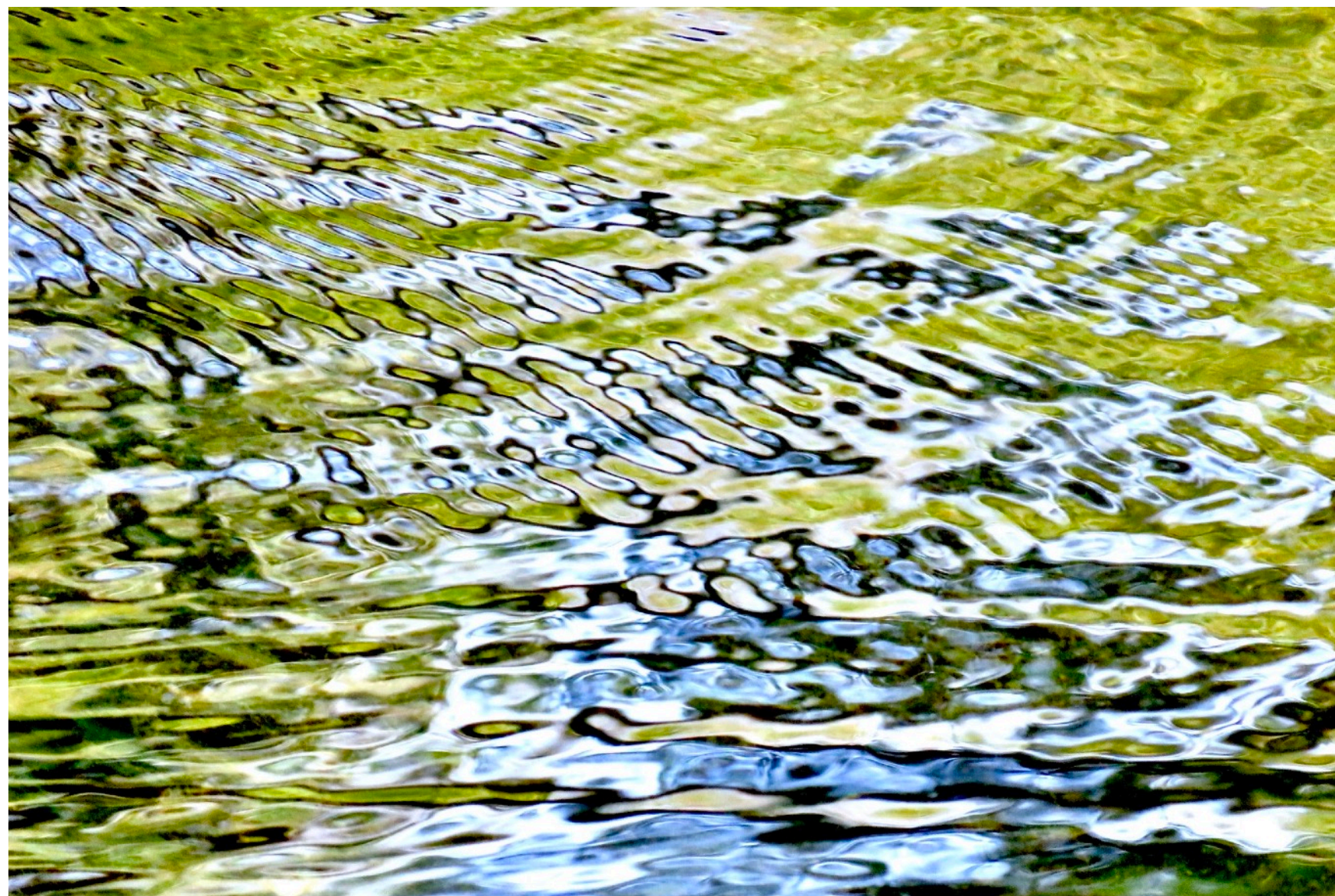
しかし
問いが異なれば
開かれる世界は異なる

求めよ
さらば与えられん
その言葉にも似て

問いによって
求めたものが
開かれるからだ

与えたものが
与えられるように

そこに
世界は現れる
まるで謎のように



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

喜怒哀楽は
年輪のように
育ってゆくが

好きか嫌い
快か不快か
その振り子運動ばかりを
いくら繰り返しても
樹は育ってはいかない

振り子運動に
哀しみを覚えるとき
年輪はひとつ重ねられる

哀しみを
超えて歩むことができたとき
そこに楽の音は響きはじめる
また新たな年輪が重ねられるが

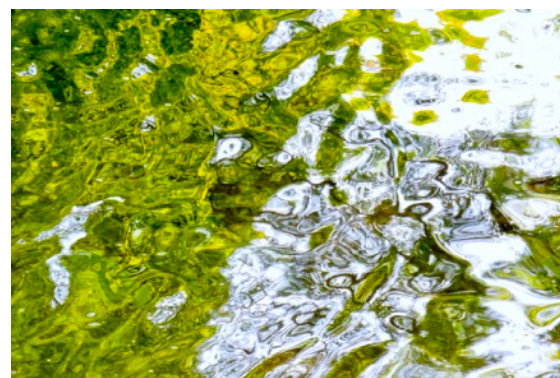
こころが病を得て
振り子運動に終始しはじめるとき
年輪は壊れはじめる

まず楽が失われ
哀しむことができなくなり
怒りのなかで
みずからを見失ってゆく

たしかに年輪を重ね
こころを育てていけますように



不交液系入り向原町 白石屋にて



日常は
現実だろうか

わたしたちは
たしかな現実を
生きているだろうか
生きられているだろうか

いまや
ヴァーチャルな現実が
次々とひらかれている

いまここにたしかにある
そう思っている世界も
その源においては
ヴァーチャルな世界から
つくられているのかもしれない

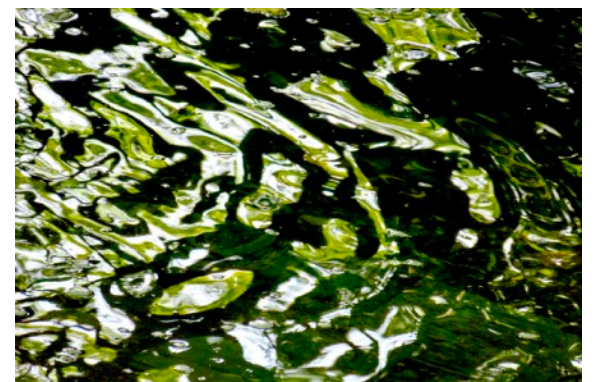
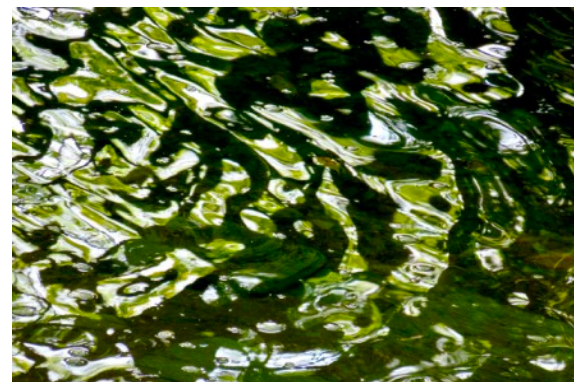
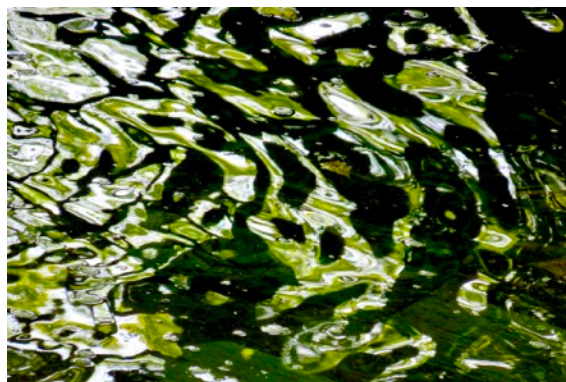
存在と訳されているexistenceは
もと外exに立つsistereということ
そして実体sustanceは
下subに立つsistereということ
意味していたように

かつてひとは
この世界に存在するものは
波とみえるものが
海から現れてくるように
別の世界から現れたものと考えていた

わたしたちは
波としての日常を生きながら
海であるみずからを
忘れて生きてはいないだろうか

ときに日常のなかに
異界から訪れるものがある

それを見ようとするか
見ることを拒むかで
現実はその姿を変えていく



*愛媛県久万高原町・古岩屋にて

わからないことを
おそれない

わからないことの答えを
教えてもらおうとしても

だれかの答えは
わたしの答えではない

わからないのは
わたしだ

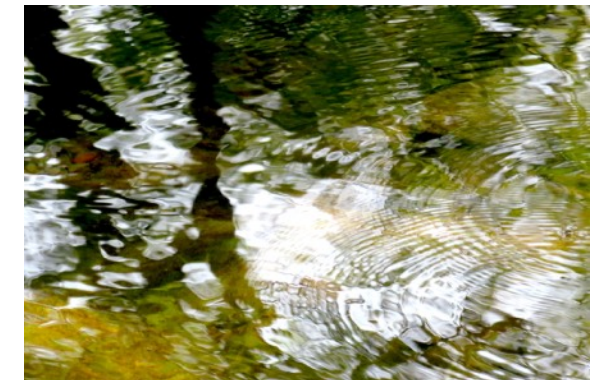
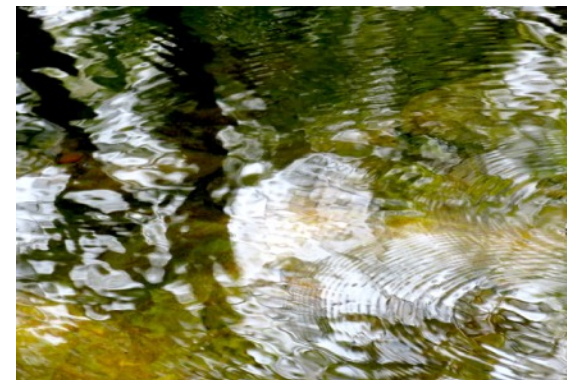
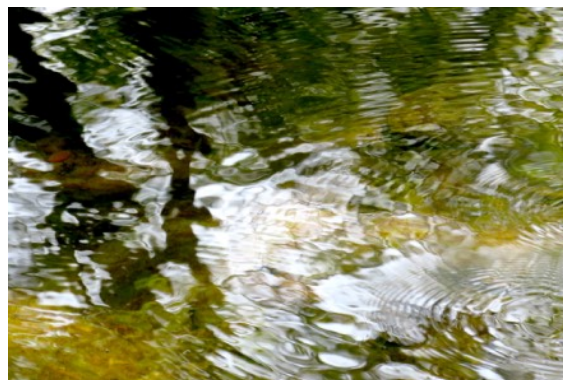
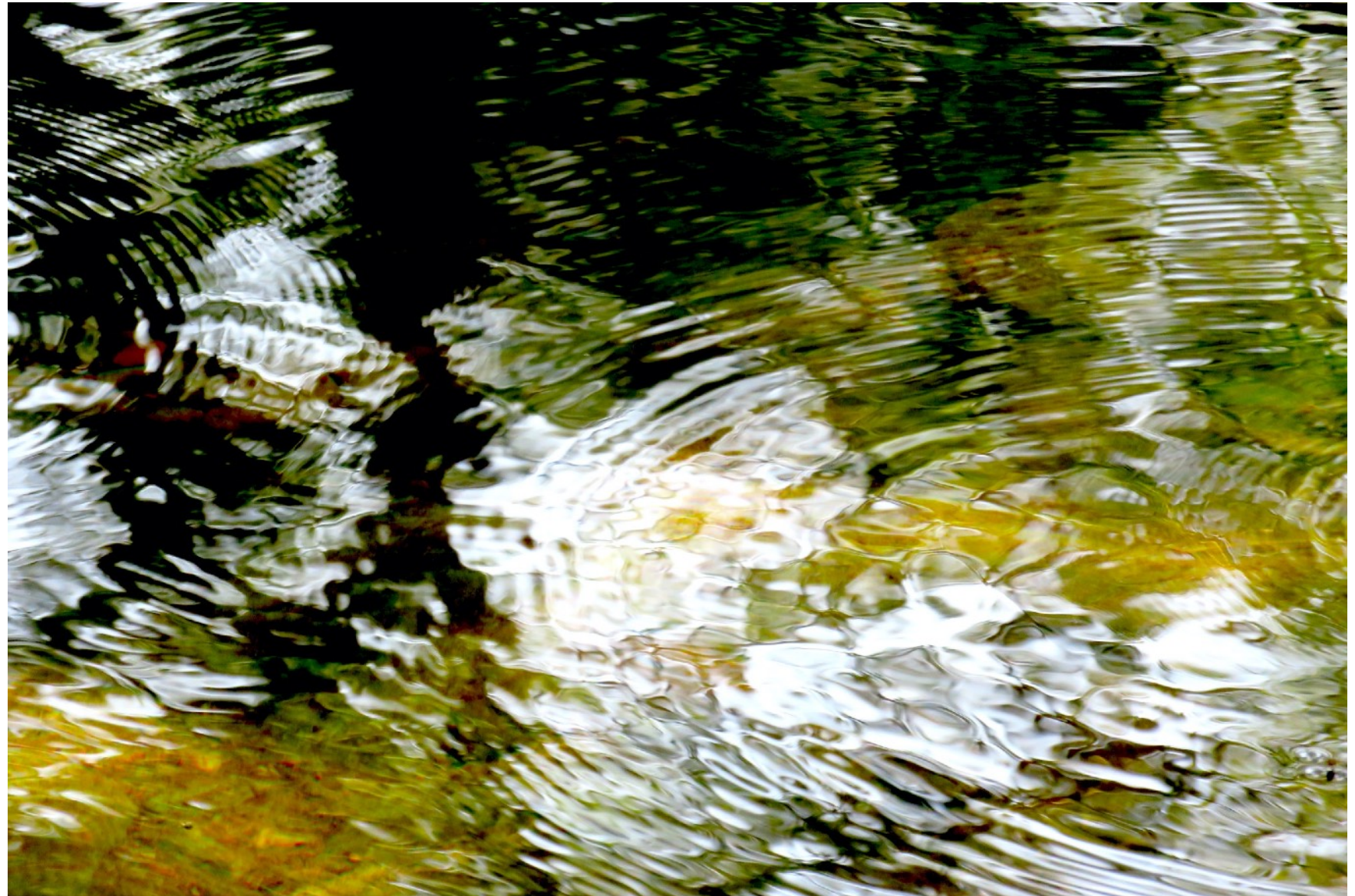
考えるのは
わたしだ

迷うのは
わたしだ

迷路は
じぶんで
歩み続けなければならない

世界は
描かれた地図ではない
それは閉じた世界のままだ

生きた世界を迷い進むとき
世界の未知はひらかれはじめる



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

ひとは

見えないものに

縛られ

式神が

陰陽師に

使役されるように

魔法に

かけられ

自由を失くしている

知に惑わされると

知の魔法で

情に惑わされると

情の魔法で

意に惑わされると

意の魔法で

教えられた答えに

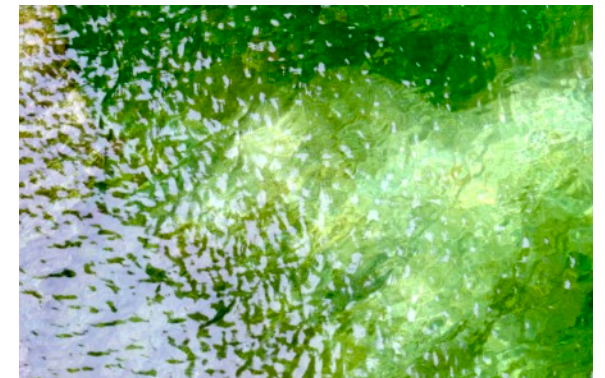
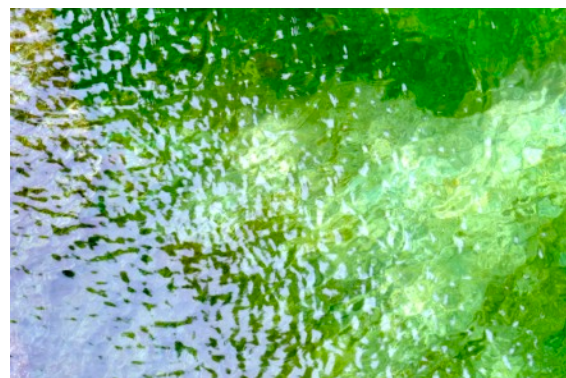
しがみつ

問うことを忘れ

そこから離れられなくなる

縛られていることにさえ

気づけないまま



＊愛媛県内子町・小田深山溪谷にて

そのかたちは
見えているだろうか

変わらないかたちはない

かたちは
うたかたのように
変わりつづけながら
生起するなかにある

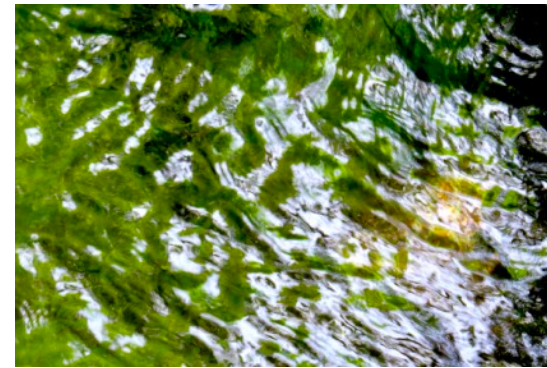
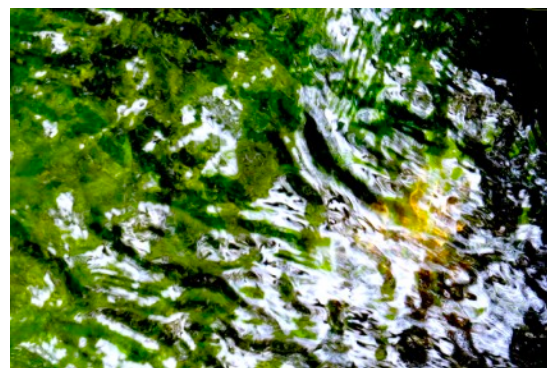
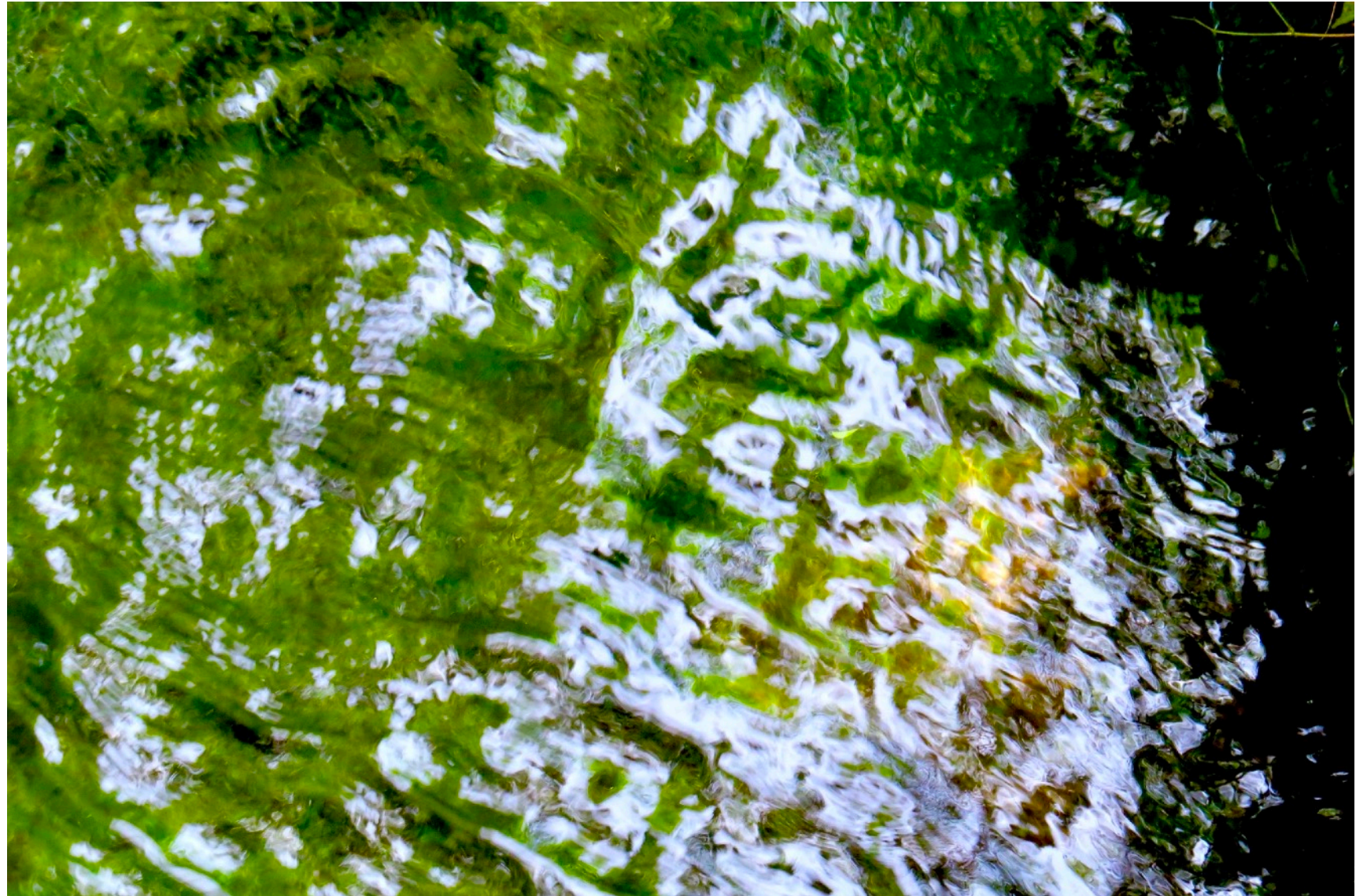
過去のかたちに
とられず
かたちのあらわれを
見ることができますように

このわたしは
存在しているだろうか

変わらないわたしはいない

わたしは
時の舟に乗り
旅しつづけながら
生死を繰り返すなかにいる

過去のわたしに
とられず
わたしのあらわれを
遊戯できますように



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

名を守り
伝えることで
継がれるものがあり

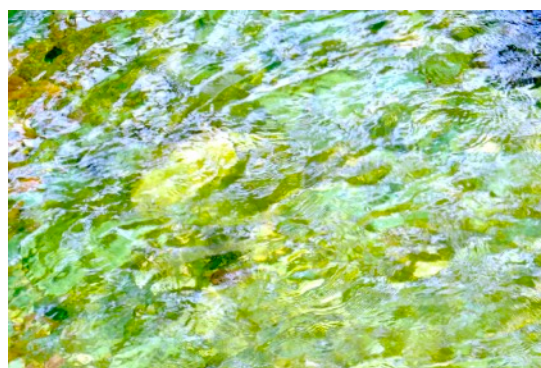
名を捨て
新たな名のもとで
つくられるものがあり

名なきをもって
名の縛りを超え
歩むことのできる自由がある

知を守り
伝えることで
継がれる道があり

知を捨て
新たな知のもとで
つくられる道があり

無知をもって
知の縛りを超え
歩むことのできる未知がある



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

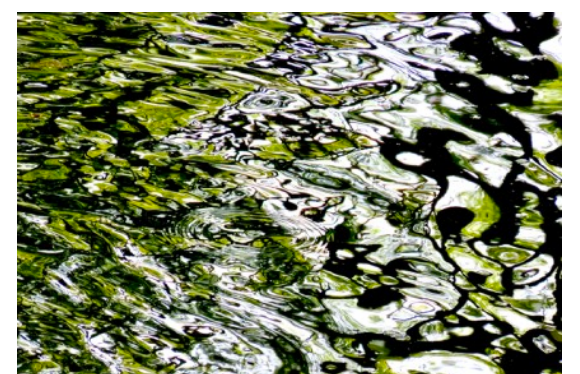
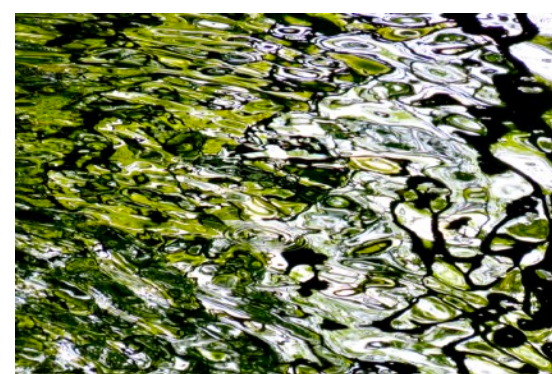
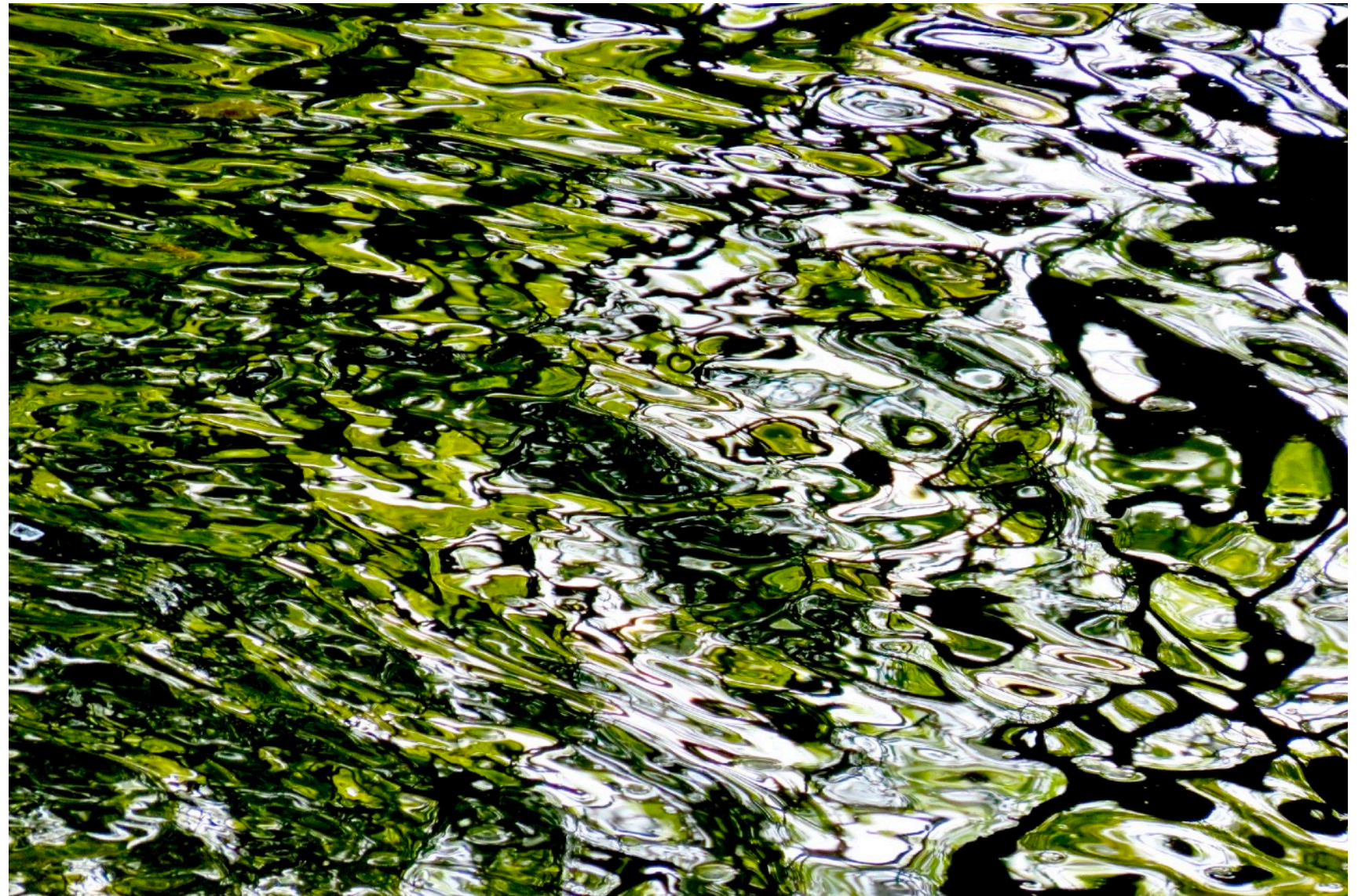
なんどでも
なんどでも
かんがえる

おなじことのようでも
おなじことは
けっしてないから
くりかえし
かんがえる

なんどでも
なんどでも
いまここで
くりかえし
はじめて
かんがえる

かんがえることは
いつもあたらしい
かんがえは
いつもうまれたばかり

かんがえて
かんがえて
かんがえることで
そこに
うまれてくるものと
ともに生きる



美は醜を生む

醜なきところに
美を求めるとき
美はその均衡を失う

美と醜
ともに相生じる源より
感官を育て
変容させられますように

善は悪を生む

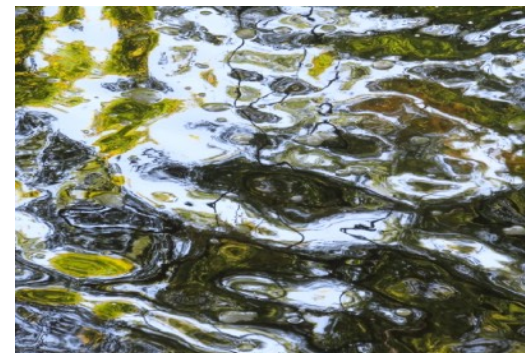
悪なきところに
善を求めるとき
善はその均衡を失う

善と悪
ともに相生じる源より
靈性を育て
変容させられますように

賢は愚を生む

愚なきところに
賢を求めるとき
賢はその均衡を失う

賢と愚
ともに相生じる源より
智慧を育て
変容させられますように



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

おもしろいことをしよう

そうしていきければ
なんとうれしいことか

きめられたとおりに
かんがえるだけの
わたしはつまらない

おしえられたことを
おしえられたようにおぼえる
わたしはつまらない

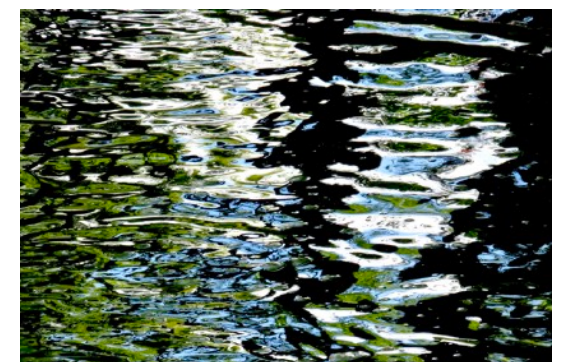
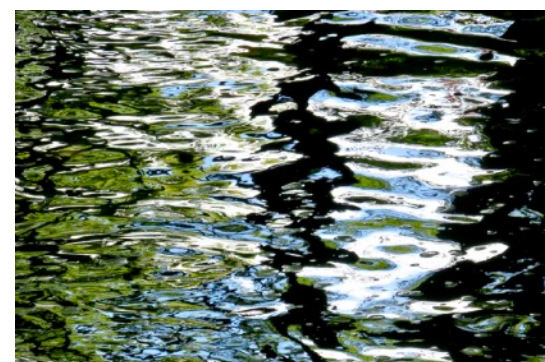
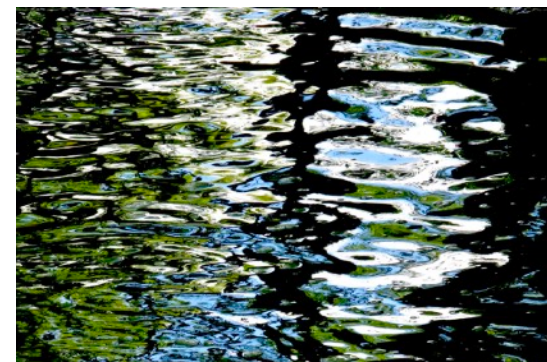
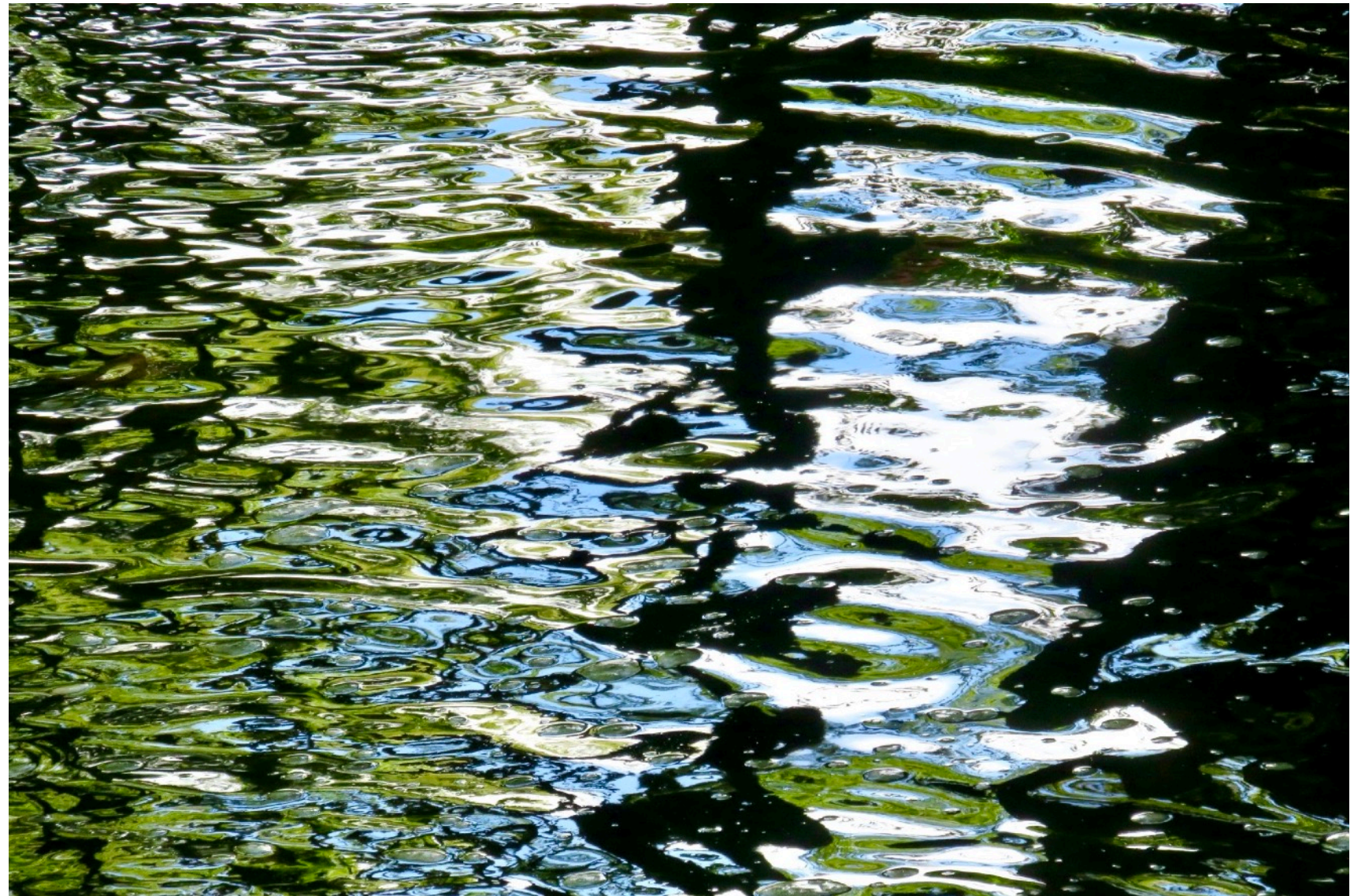
みとめられるために
みとめられることをする
わたしはつまらない

わたしのなかにいる
わたしでないわたしたちのことを
わすれたままだとつまらない

つまらないことはやめよう

わたしという
ひらかれたうちゅうで
おもしろいことをしよう

わたしという
だれでもないわたしこそ
おもしろいことができるのだから



過去に遡っても
ほんとうの
わたしはいない

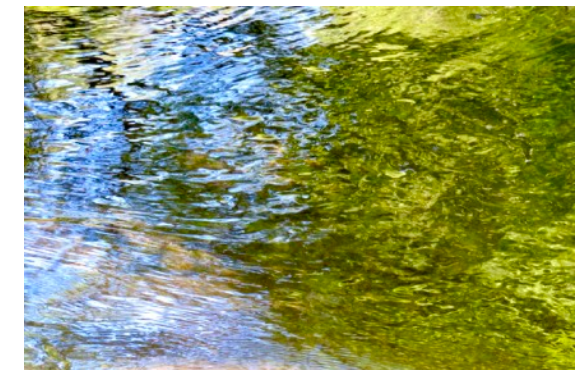
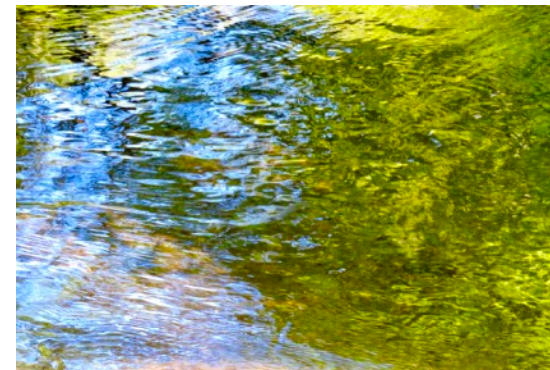
子どものころに
戻ることができたとしても
子どもは
子どもでしかないように

この生を
去ることで
永遠が得られることもない

死と再生の
秘儀の物語を
生きようとしても
この生が
アムリタで
充ちることなどないように

わたしは
このわたしの
生という場所で
いまを生きねばならない

そこにすべてはあり
わたしという現象は
ときに地のように立ち
ときに水のように流れ
ときに火のように燃えさかり
ときに風のように吹きすぎてゆく



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

ひとであるとは
ということだろう

ひとであることは
むずかしい

わたしは
ただわたしであるだけで
ひとになることはできない

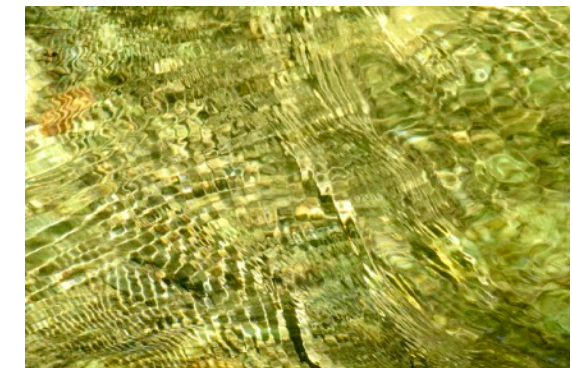
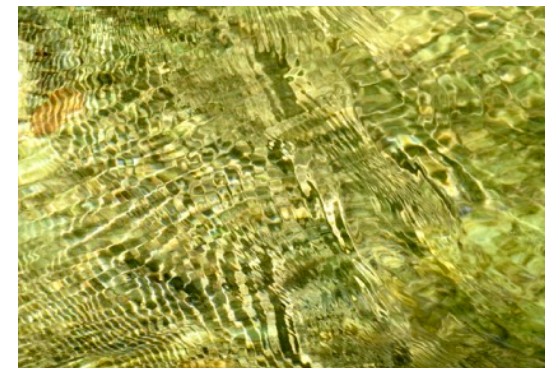
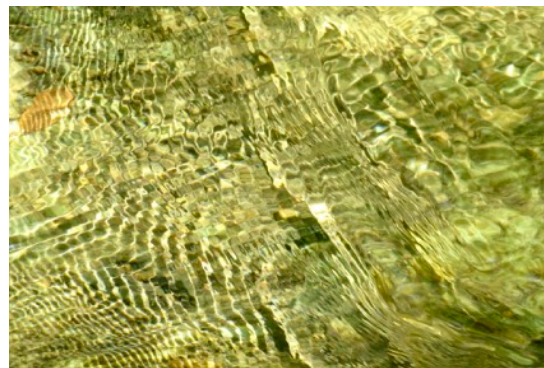
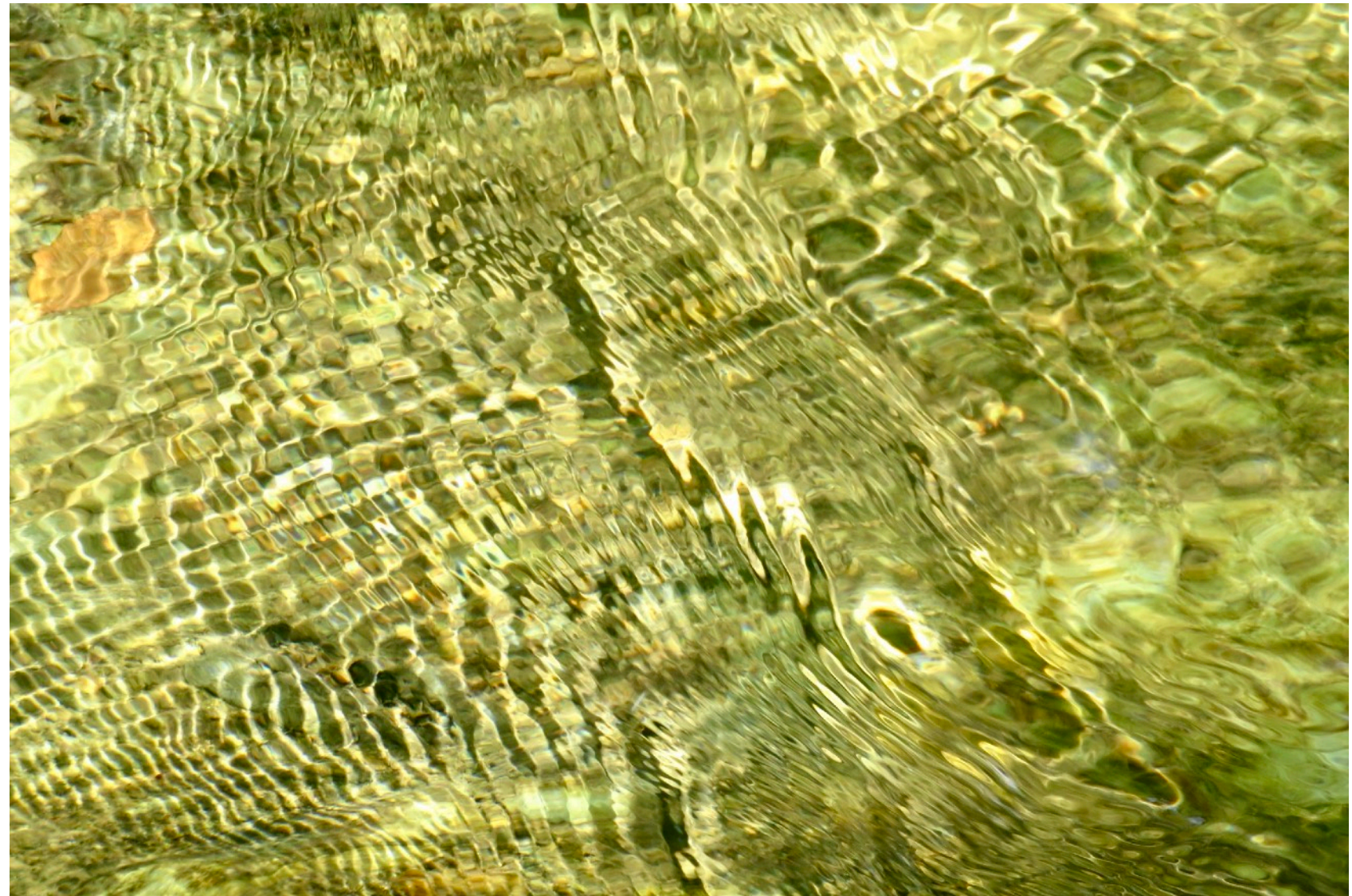
みずからを
他者のように見
他者を
みずからのように見ることで
ひとへの途を歩んでゆける

けれどそれは
他者とおなじように
感じ考えることではない

ときにそれは
ひとがひとでないものになる
そんな闇へと
導くものとなるから

わたしは
迷路のような
困難な途を歩み

自他を超えた
自由において
ひとにならねばならない



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

ここに
争いが生まれれば
からだにも
争いは生まれるだろう

からだに
争いが生まれれば
ここにも
争いは生まれるだろう

ひととひとに
争いが生まれれば
社会にも
争いは生まれるだろう

社会に
争いが生まれれば
ひととひとにも
争いは生まれるだろう

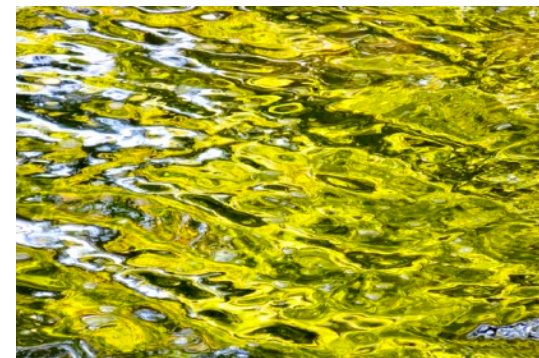
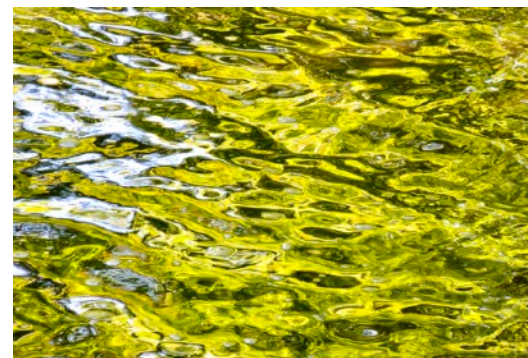
社会に
争いが生まれれば
世界にも
争いは生まれるだろう

世界に
争いが生まれれば
社会にも
争いは生まれるだろう

争いを
なくすために
わたしに
できること

それは
ここに
争いをつくらないことだ

ここに
争いが生まれたときは
静かにみずからをふりかえる



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3666 2024.9.23

機械のからだを得て
永遠に生きていこうと
銀河を旅する物語があるが

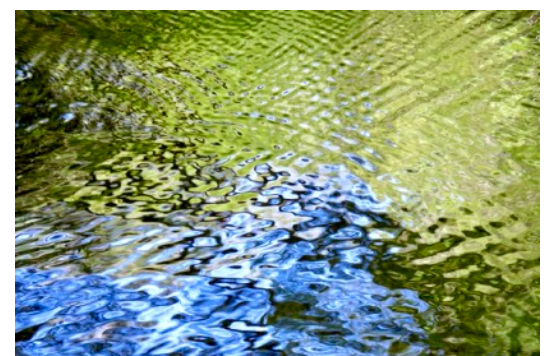
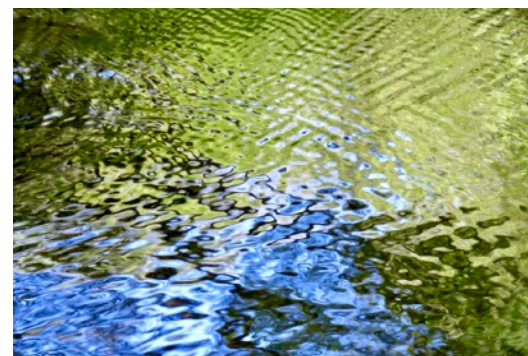
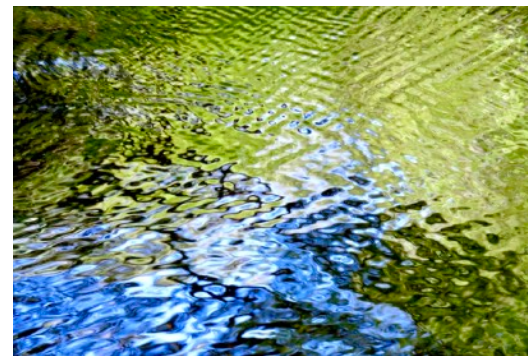
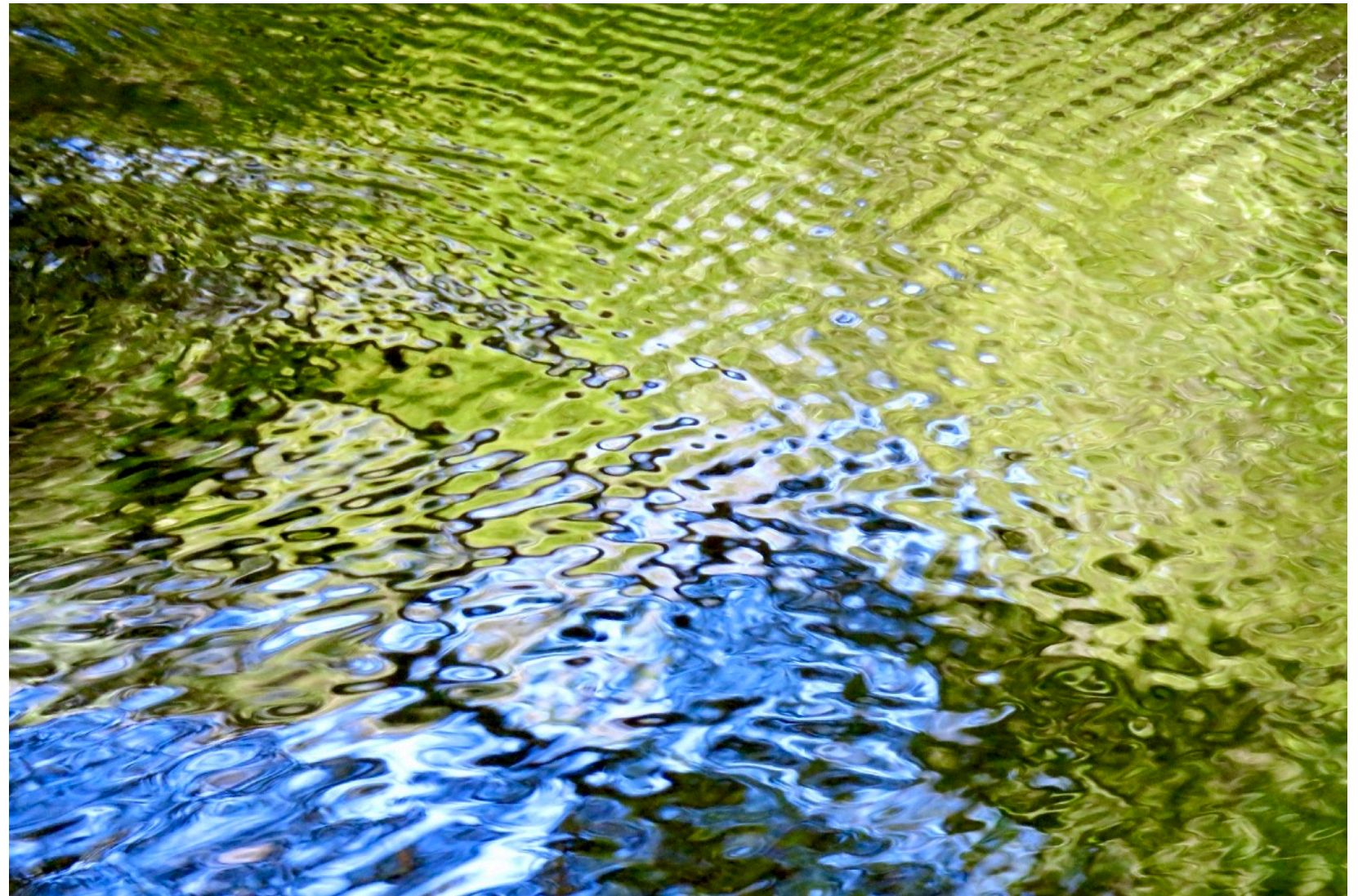
考えることを
AIに肩代わりさせ
からだの部品も代替品に代え
生きようとするとき

そこに内なる宇宙は
残っているだろうか

内なる宇宙だけで
生きてはいけないけれど

内なる宇宙を
失ってしまったとき
わたしはいったい
何者になっているのだろうか

わたしは
与えられた意味や形から離れ
だれでもないわたしとして
世界と呼吸しながら
内なる宇宙とともに
地を這い歩き踊りながら生きる



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

政（まつりごと）が
歌を忘れるとき
失われる大切なものがある

歌はいまでも
みつかるだろうか

現が
夢を忘れるとき
失われる大切なものがある

夢はいまでも
みつかるだろうか

生きることが
自由を忘れるとき
失われる大切なものがある

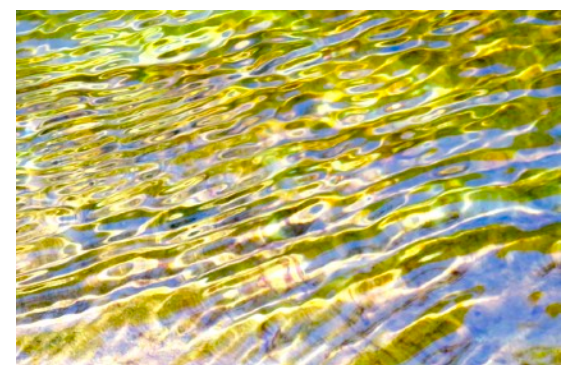
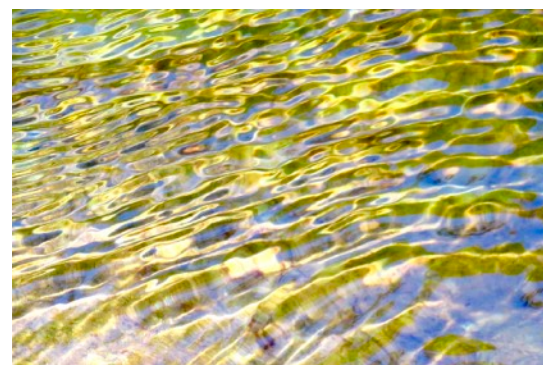
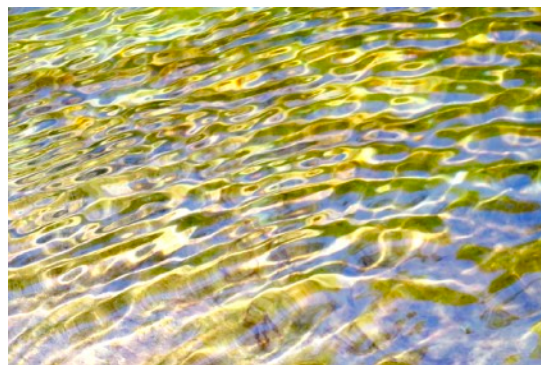
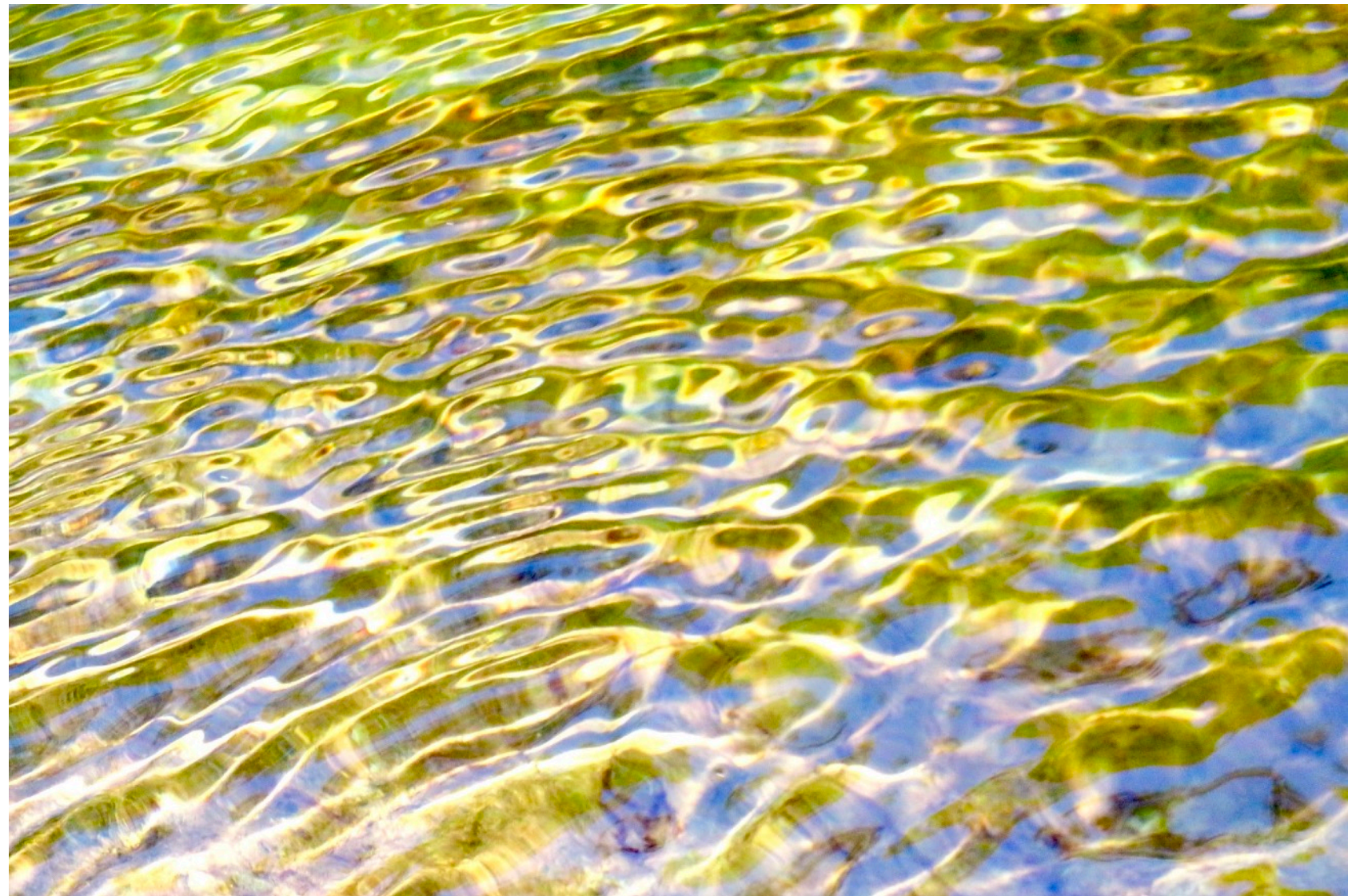
自由はいまでも
みつかるだろうか

考えることが
感じることを忘れるとき
失われる大切なものがある

感覚はいまでも
みつかるだろうか

知ることが
愛することを忘れるとき
失われる大切なものがある

愛はいまでも
みつかるだろうか



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

文字になるまえに
声があり
声になるまえに
音の源がある

音の源から
森羅万象
宇宙は生まれくる

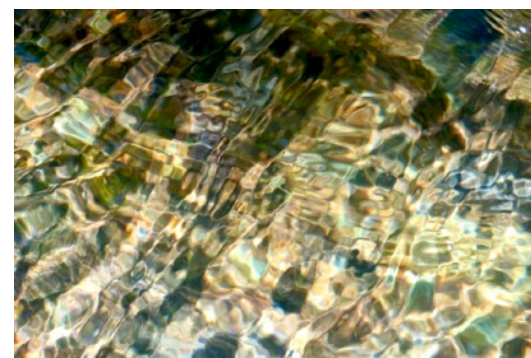
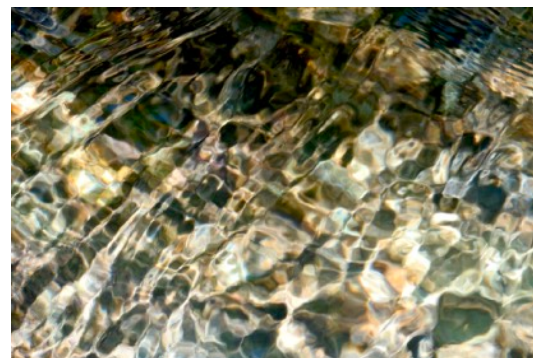
音の源
音の郷へと溯り
弦となりつつ
ともに響くとき

音は生まれ
声となり
歌が紡がれ
やがて文字は描かれる

文字から
声が
響きが
失われるとき

言葉はもう
なにも歌えなくなる

からっぽの言葉は
なにも容れることのできない
貧しく悲しいからっぽな器になる



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

うたは
うたかた

されど
うたは
言祝ぎ
ひとを
讃え

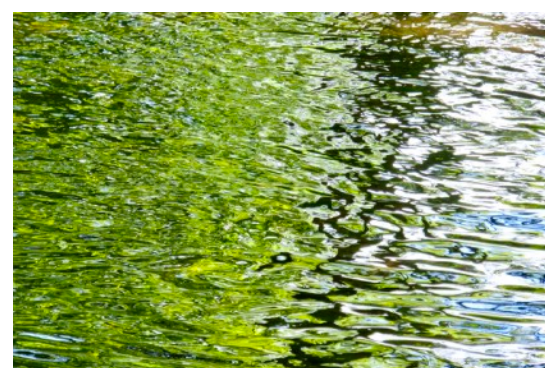
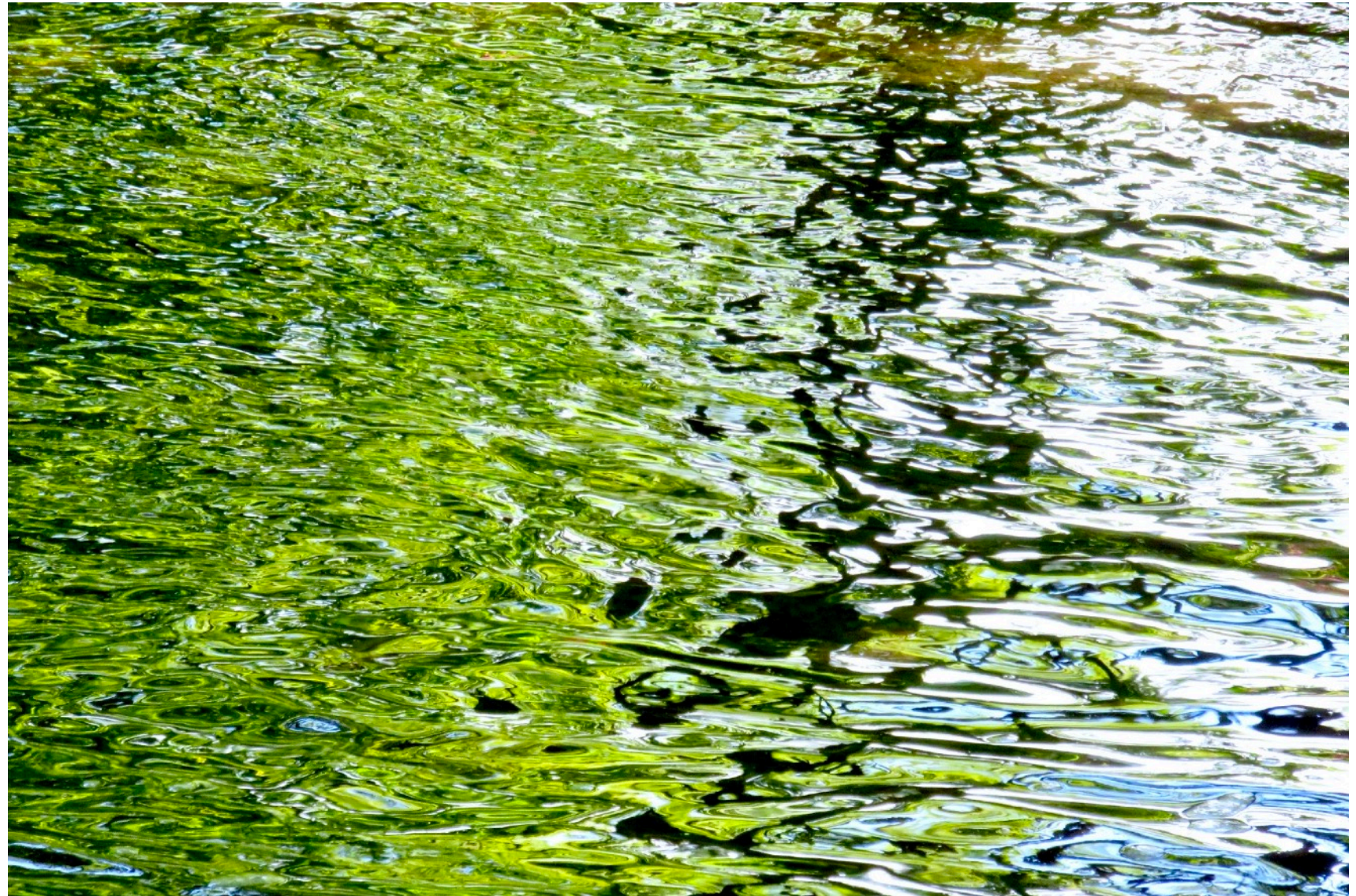
うたは
寄り添い
ひとを
癒やす

うたは
生まれ
うたは
継がれ

忘れられた
うたが
甦るとき

ひとは
そのいのちに
ふれ

うたかたを
永遠へと
変える



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

言葉は
言葉ではないものとの
境域から生まれてくる

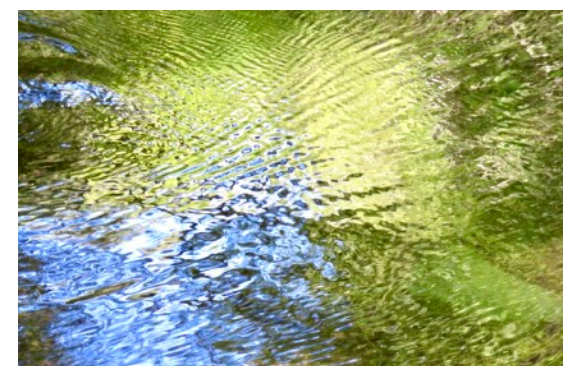
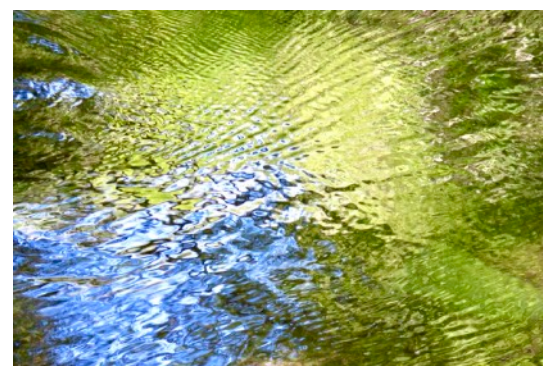
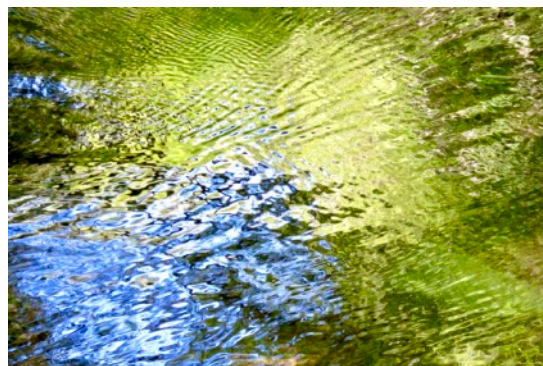
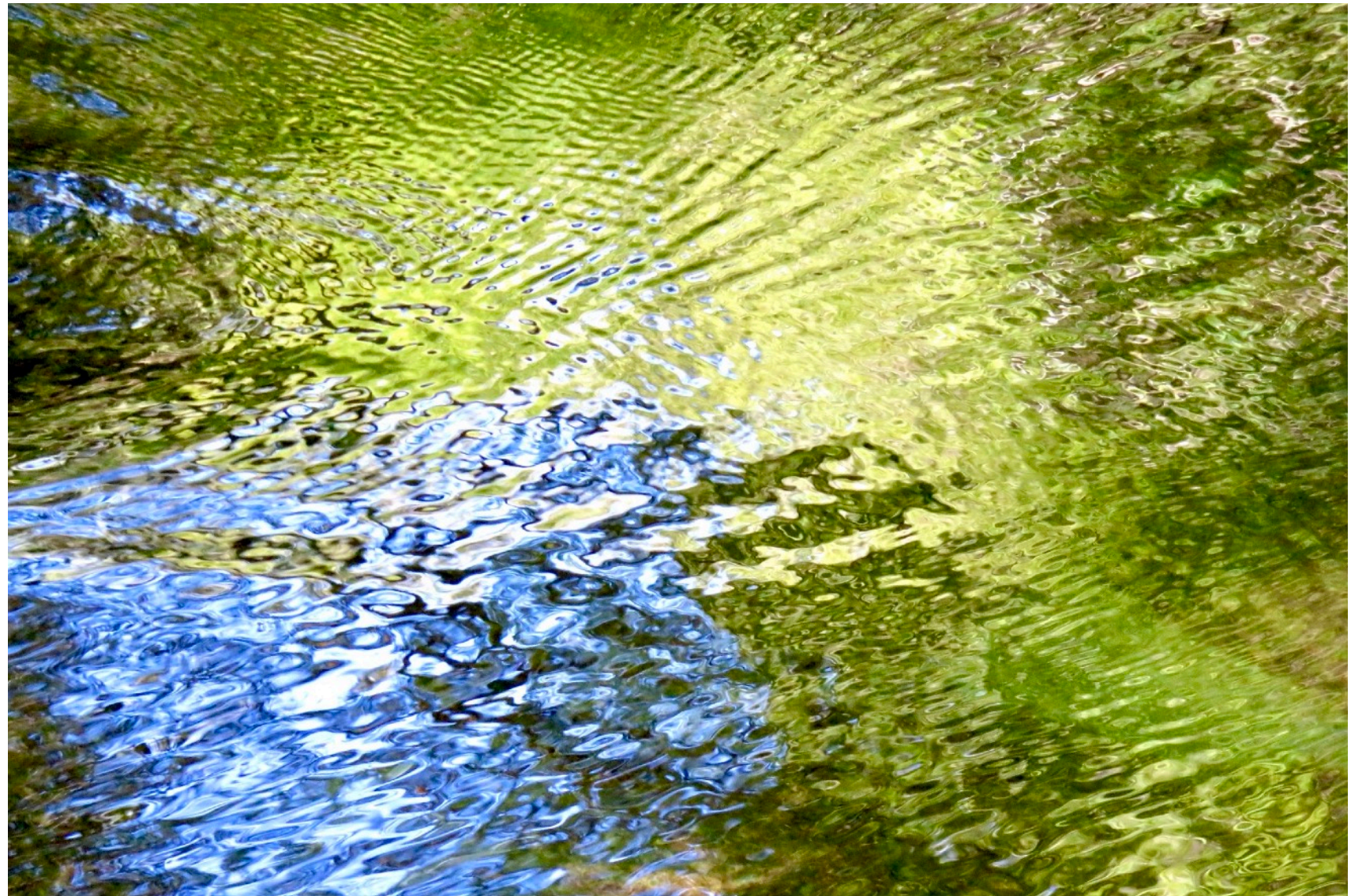
言葉は
そのいのちを失うとき
境域へと還ってゆく

言葉を
あらたな言葉として
甦らせるために
ひとはその
だれのものでもない言葉の
器にならねばならない

詩（うた）は
詩ではないものとの
境域から生まれてくる

詩は
そのいのちを失うとき
境域へと還ってゆく

詩を
あらたな詩として
甦らせるために
ひとはその
だれのものでもない詩の
器にならねばならない



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3671 2024.9.28

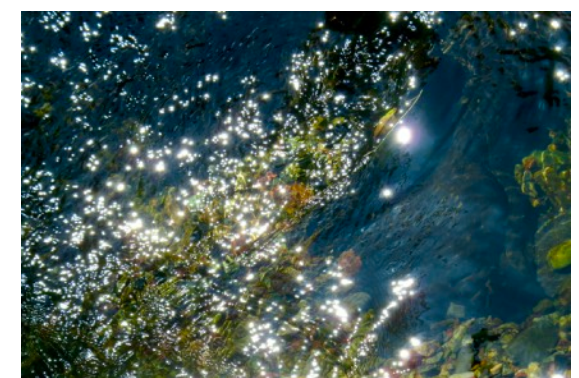
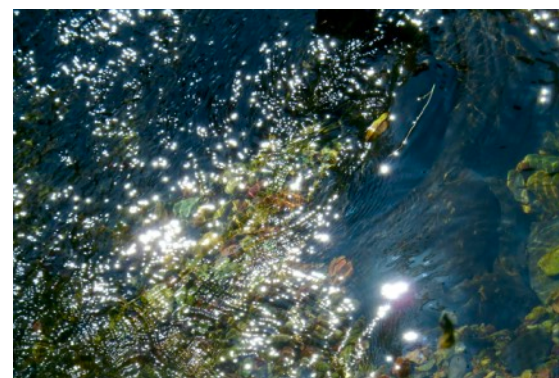
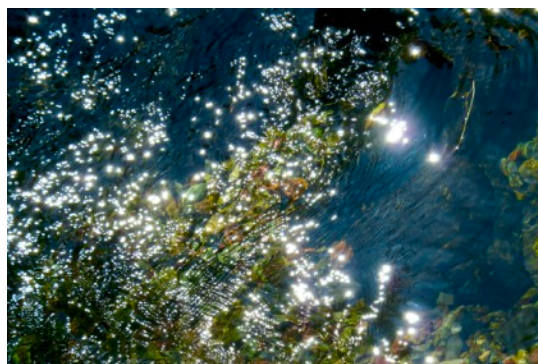
存在は
無に
支えられている

音が
間に
支えられ

現実が
想像に
支えられ

言葉が
沈黙に
支えられているように

そして
私は
他者に
支えられながら
私という謎を生きている



＊愛媛県内子町・小田深山溪谷にて

ほんとうに生きるために
わたしたちは
なにをたべればいいのかろう

たべものが
わたしたちのからだを
こわしてしまうことがある

たべものが
わたしたちのころを
だめにしてしまうことがある

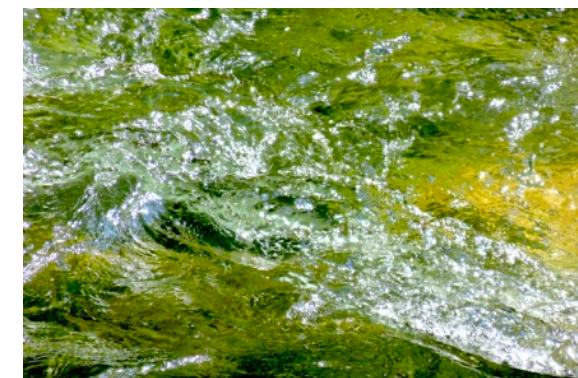
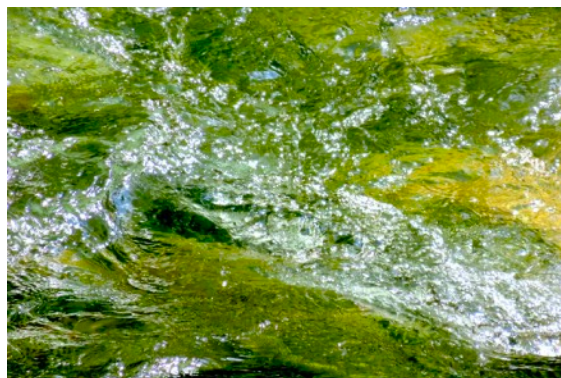
たべるということは
どういうことなのだろう

生きるということは
どういうことなのだろう

わたしたちの
ほんとうのからだを
つくってくれるたべものとは

わたしたちの
ほんとうのころを
そだててくれるたべものとは…

わたしたちはといつづける
ほんとうに生きるために



＊愛媛県内子町・小田深山溪谷にて

表は
裏を産み

外は
内を産み

光は
影を産み

善は
悪を産み

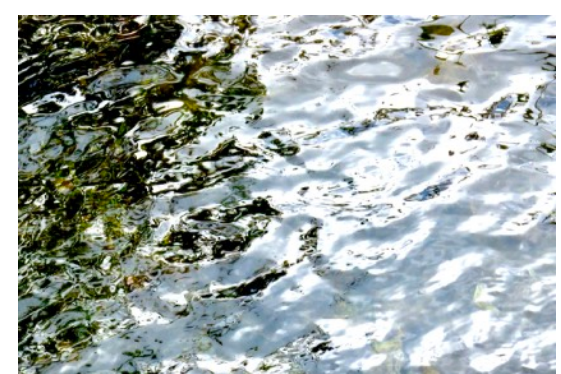
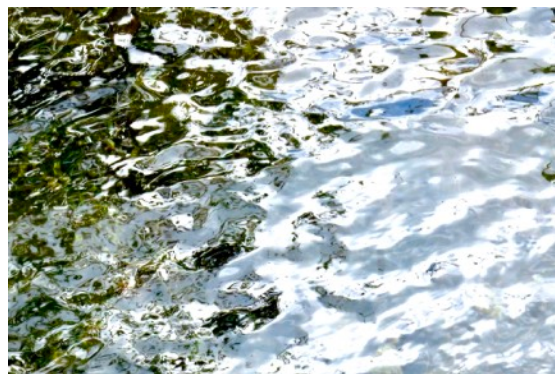
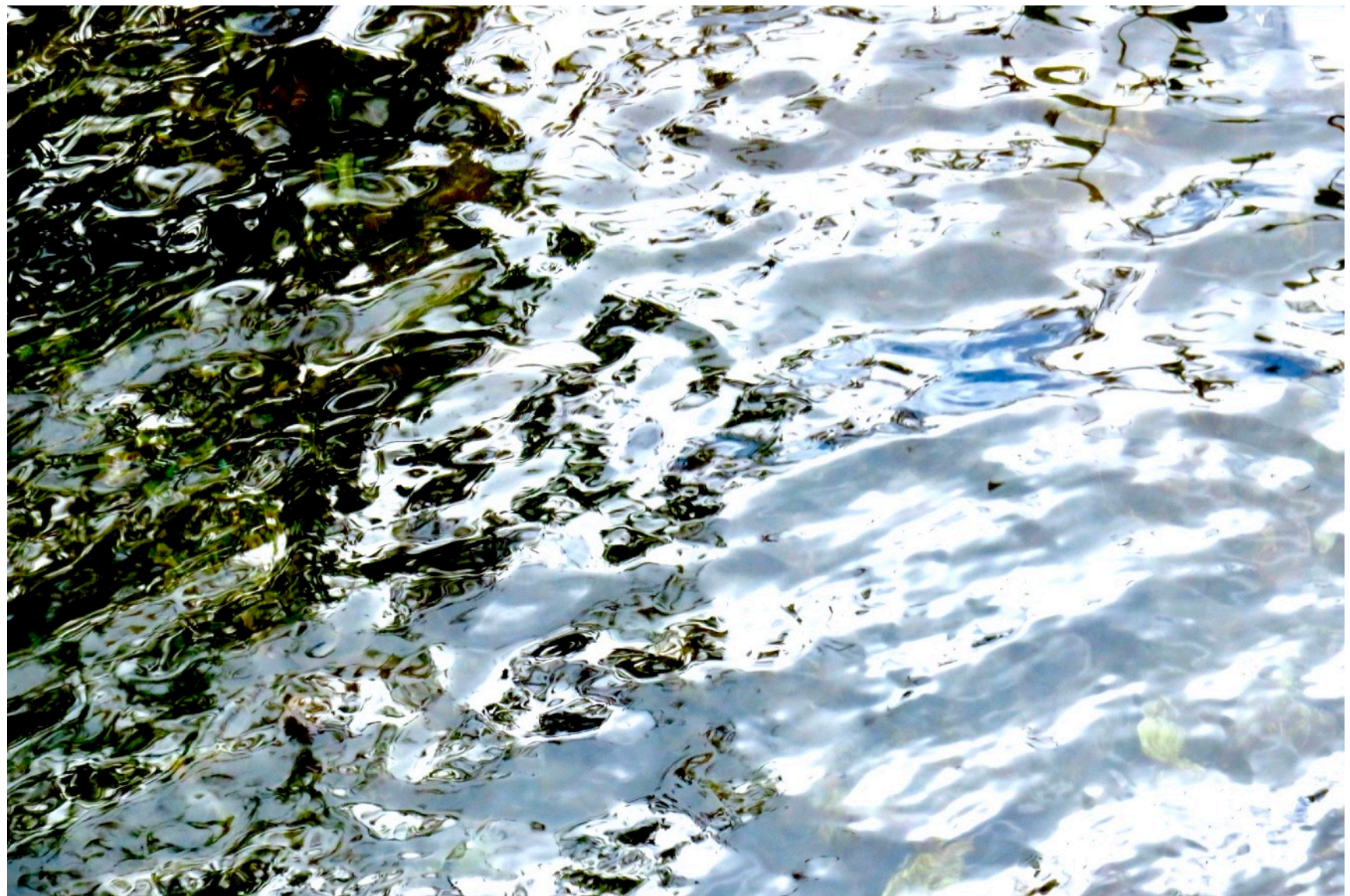
真は
偽を産み

聖は
俗を産み

生は
死を産み

ときに
双面は反転し

合わせ鏡の如く
照らし合う



＊愛媛県内子町・小田深山溪谷にて

声を
文字にし

意味を
文字にし

声と意味を
重ねながら
新たな文字にし

わたしたちは
文字とともに生きているが

文字にならない声
文字にならない意味を
忘れてはいないか

美という文字を覚えることで
美しさを見失ってはいないか
自由というという文字を覚えることで
自由を見失ってはいないか

言葉を
言葉にしているもの
その深みで捧げられている
ほんとうの歌はきこえているか



＊愛媛県内子町・小田深山溪谷にて

言葉の
外へと
向かうために

言葉になる
まえの世界へ

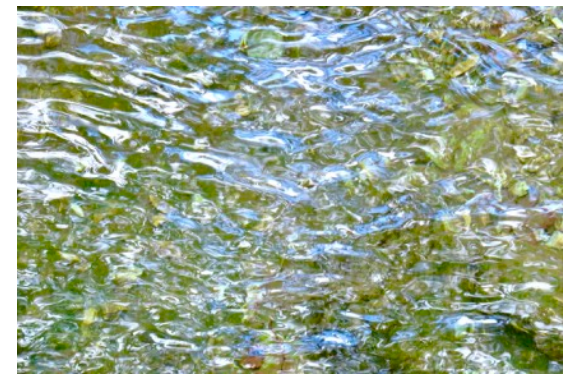
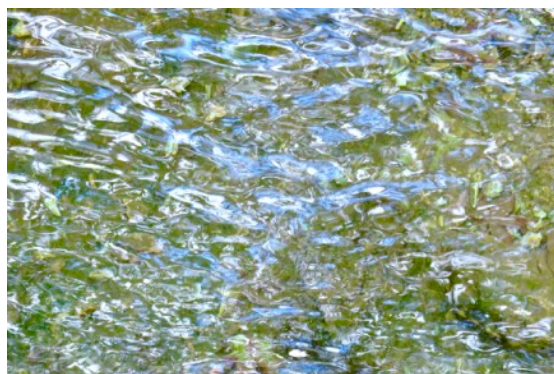
戻るのではなく
さらに
歩を進める

言葉の
つくりあげていた
現実

その世界に
亀裂をいれ
外へ出る

笑いながら
問いと
答えの
矛盾を超える

そこで
生まれる
言葉とともに
自由に生きる



*愛媛県内子町・小田深山溪谷にて